

へいせい ねんど
平成25年度

どようび きょうしつ
土曜日フォローアップ教室だより No. 8

へいせい ねん がつ にち
平成26年1月29日

しじょうなわて しきょういくいいんかいせいしやうねんか
四條畷市教育委員会青少年課

いま さんか
今からでも参加できますよ・・・

1月の1回目は冬休み明けの連休初日で、しかも南中校区では地域行事(大とんど)が実施されることから、土曜教室に参加する子どもは少ないだろうと予想されました。(地域行事に参加することも大切ですから・・・)その結果、南中校区の学校から参加している子は予想通り少なかったのですが、他の会場ではずいぶん久しぶりに参加する子がいたりして、思ったより多くの子どもが参加してくれました。(よかったよかった・・・)

しかし、2回目はどういうわけか思ったより参加者が少なくなっていました・・・。(寒いからかな? 風邪でもひいたのかな?)いつも参加している子が休むと「あの子はどうしたんだろうな。」とってしまいます。

それでも、複数の会場で「初めて参加するんですけど・・・。」と言って新しいメンバーが来てくれました。学ぼうと決断した時が参加の機会です。いつでも喜んで受け付けていますので、今からでもどしどし参加して下さい。

がつ がくしゅう
2月の学習について・・・

2月の土曜教室は全会場とも1日と15日に実施します。

フォローアップ教材だけではなく、家庭学習用ドリルや学校の宿題プリントなども活用して復習をしっかりとやっておきましょう。

今年度の土曜教室はあと4回しかありません。たかが4回、されど4回・・・
4回でやれることはいっぱいあります。最後までがんばりましょう。

家庭学習で言葉の土台を育てるために・・読書のすすめ

子どもたちの学習を見ていると、計算などは得意なのに問題が文章で書かれていると「これはたし算？ひき算？」とか「答えを教えてください。」という子が結構います。すぐに「意味わからん。」とか「算数はいいいけど国語はめんどくさい。」という子もいます。

学習で大切なのは答えを覚えることではなく、答えを出すための道すじを見つけることだと思うのですが、そのためには、書かれている文を読み取ったり、考えたことを表現するといった言葉の力が必要になります。

昔から学問の基礎は「読み書きそろばん」と言われているように「読み書き」の力を育てることはとても大切なのですが、今の子どもたちには「読み書き」をする時間がとても少ないような気がします。テレビやゲームに使う時間は、本を読む時間よりはるかに多くなっているようですし、手紙よりメールの時代なので、学校の勉強以外で文を書くことなどほとんどない・・というのが今の子どもの現状なのではないでしょうか。

子どもが「勉強がわからん。」という時、問題の解き方以前に、問題文の意味が理解できていないという場合がよくあります。文の意味がわからないと言う子には、「勉強しなさい。」と言う前に、読み書きの土台を育てることがとても大切になってきます。

そのためにおすすめしたいのが読書です。人が身につける言葉の数は日常会話よりも本や新聞などから得る方がはるかに多いと言われていています。直接経験できないことや知らなかった言葉も本などから得ることができ、子どもの言語力や想像力を広げることに繋がります。

本を読めない幼児や、あまり読まない低学年の子には絵本の読み聞かせから始めるといいでしょう。中学年からは一緒に本を読んだり子どもと読んだ楽しい本の話をして、いろいろな本の楽しさを伝えたいものです。高学年になると新聞を活用して家族で同じ話題を持つのもいいでしょう。

子どものころに本をたくさん読んだ子は、言葉の力が育ち、心が豊かになり、結果として学力の向上にもつながることが期待されます。

家庭での読書運動を始めてみませんか？